慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	真理の度合理論は適切か? : ファジイ論理と真理理論 (5月14日 三田キャンパス東館4階セミナー室)
Sub Title	Lecture by Dr. Shunsuke Yatabe: Relationship between fuzzy logic and truth theory
Author	秋吉, 亮太(Akiyoshi, Ryota)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2010
Jtitle	Newsletter Vol.13, (2010. 9) ,p.6- 6
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	GCOEワークショップ
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000013-0061

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

GCOE ワークショップ　真理の度合理論は適切か？ ～ファジイ論理と真理理論～

Lecture by Dr. Shunsuke Yatabe: Relationship between Fuzzy Logic and Truth Theory

（5 月 14 日　三田キャンパス東館 4 階セミナー室）

2010 年 5 月 14 日に矢田部俊介（産業総合研究所）博士を招き、「真理の度合理論は適切か？ ～ファジイ論理と真理理論～」というタイトルで講演をしていただいた。当日は、哲学、論理学、情報科学、数学といった広い分野から予想を上回る数の方々にお越しいただいた。

ファジィ論理とは、真理値として通常の 1.0（真・偽）を含む閉区間［0.1］の任意の実数値をとり、伝統的には「真理の度合い」を表現するとされてきた。しかしながらこの真理の度合い理論を公理的真理理論の中で形式化すると ω - 矛盾する。従って公理的真理論における真理概念と真理の度合い説は整合的ではない、という結論を導くのが矢田部氏の議論である。

以上のように、矢田部博士の講演は哲学的主張（真理の度合い説）を（ω - 無矛盾性などの）数学的結果から導くという学際的アプローチをとっており、本研究センターの趣旨に沿ったものである。最後に、当日は非常に活発な議論が行われたことを記しておく。（秋吉亮太）

Dr. Shunsuke Yatabe gave a lecture on the relationship between fuzzy logic and truth theory on 14th May, 2010. We had fruitful discussions from philosophical and mathematical viewpoints.

講演会 Akihiro Kanamori 教授・Juliet Floyd 教授講演会

Lectures by Professor Akihiro Kanamori and Professor Juliet Floyd

（6 月 11 日　三田キャンパス研究室棟会議室 A・B）

2010 年 6 月 11 日に、ボストン大学で数学教授を務める Akihiro Kanamori 教授と、同じくボストン大学で哲学教授を務める Juliet Floyd 教授をお招きし、共に講演をしていただいた。Kanamori 教授は、集合論及び数学史に関する研究を精力的に行っており、特に巨大基数に関する著作 The Higher Infinite (Springer) は広く知られている。今回の講演において Kanamori 教授は、証明概念が数学の実践において果たす本質的かつ多様な役割を、様々な現代の数学的定理の証明を挙げつつ示した。また、数学・論理学の哲学やウィトゲンシュタイン研究を含む広範な分野で活躍する Floyd 教授は、ウィトゲンシュタインと数学者アラン・チューリングとの関係に光を当てることを通じて、ウィトゲンシュタインの数学の哲学に新たな理解をもたらしうることを論じた。

両講演には数学及び哲学の研究者が多数参加し、講演後には発表者とフロアとの間で活発な議論が交わされた。こうした形で哲学と数学の垣根を超えた分野横断的な交流の場が設けられたことは、数学と哲学双方の分野の研究者にとって大変貴重な機会であったと思われる。（鈴木生郎）

On June 11th, 2010, Professor Akihiro Kanamori and Professor Juliet Floyd gave lectures on the themes related to mathematics and philosophy. Their lectures shed new light on the important and complex role of proof in modern mathematical practice and Wittgenstein's philosophy of mathematics.

研究セミナー トランスナショナルな移民の生活感情：文化人類学的アプローチ

Emotional Terrain of Transnational Immigrants: a Cultural Anthropological Approach

（7 月 20 日　三田キャンパス東館4階セミナー室）

2010 年 7 月 20 日に、文化人類学グループでは、「トランスナショナルな移民の生活感情：文化人類学的アプローチ」と題して研究セミナーが開催された。世界的に有名な Jean Rouch の民族誌映画『Jaguar』が上映された後、South Carolina 大学名誉教授の Karl G. Heider 先生が人間の移動における感情に関する映像人類学的解釈を行った。また、慶應義塾大学の宮坂敬造先生には文化人類学の立場からディアスポラと生活感情について、シンガポールの Nanjyan Technological University の Kang Yoonhee 先生には韓国の「教育移民」の調査についてご発表いただいた。移民研究の立場から淑徳大学の松岡秀明先生、社会学から、大妻女子大学の鄭暎惠先生による貴重なコメントがあり、予定時間を大幅に超えるまで、活発なディスカッションが続いた。

（モハーチ・ゲルゲイ）

A research seminar titled "Emotional Terrain of Transnational Immigrants: a Cultural Anthropological Approach" was held on July 20, 2010. Speakers discussed the variety of emotional and social difficulties that immigrants and other people in diaspora have to face. Case studies included migrant laborers in Ghana and Indonesia and Korean students in Singapore.